

令和6（2024）年度

自己評価結果公表シート

社会福祉法人 真和会
幼保連携型認定こども園 菜の花こども園

1. こども園に移行した背景等

○1978（昭和53）年4月から2015（平成27）年3月まで仲沖保育園（認可保育園）として運営して参りました。

○昨今の子育てを取り巻く環境の変化から、地域子育て支援の重要性を強く意識し、園舎立て替え（平成18年完成）においては、地域に開かれた施設を目指し、子育て相談スペースや子育て支援の多目的ルームを整備したところです。

○園は諫早市の中央地区の交通の便が良い所に位置するため、市内各地からの入園が容易な場所となっています。園の周辺は、田畑、小川、河川の土手、公園、小学校、商業施設など、子どもの豊かな育ちに有益な社会資源に囲まれています。特に自然に恵まれた環境は、力強く生きる力の育成に適していると考えます。

○令和2年3月の諫早市の推計によれば、0～5歳の人口は、令和6（2024）年6,529人とされていて、平成27（2015）年7,278人から749人の減少予測となっています。

○教育・保育施設の利用ニーズを見てみると、平成31（2019）年は、幼稚園の利用定員1,780人に対する利用者は1,074人、保育園の利用定員3,909人に対する利用者は3,999人となっていることや3歳以上の幼児教育・保育の無償化においても幼稚園よりも認定こども園や保育園の希望が多い傾向にあると推測されます。

○保育園利用者においては、保育園における児童福祉のみならず、教育（いわゆる学校教育）の実施への期待も年々高まってきているのが現状としてあることから、認定こども園がもつ学校教育と児童福祉の機能へのニーズは今後より高まることが想定されます。

○大型商業施設の開業予定や半導体工場、菓子製造工場の建設予定などにより人口増加の見込みをはじめ、就労以外の理由による入所希望、地域子育て支援の期待が増えている現状もあり、保育所機能と幼稚園機能を併せ持つ施設が必要であることから幼保連携型認定こども園の継続が不可避なことと考えています。

2. 教育及び保育の目標や理念

乳幼児期における教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ人格形成の基礎を培う重要なものです。本園における教育及び保育は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての教育並びに保育を必要とする子どもに対する保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与え、心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援することにより、家庭や地域での生活を含め、乳幼児の生活全体が豊かなものとしていくことを目指しています。

また、年々増加している特別な配慮を必要とする子どもの支援、小学校における教育との連携、食育の推進はさらに質の高い取り組みが必要であると考えます。

3. 教育及び保育のねらい及び内容

- ・園生活を通して、生きる力の基礎を育成し、子どもの最善の利益を考慮しながら保護者とともに園児を心身ともに健やかに育成する。
- ・園児一人一人が安心感と信頼感を持っていろいろな活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする。
- ・園児の主体的な活動を促し、乳幼児にふさわしい生活が展開されるようにする。
- ・遊びを通しての指導を中心として、教育が総合的に達成できるようにし、園児一人一人の特性や発達過程に即した指導を行います。

4. 重点的に取り組む目標

これまでの保育園時代の経験に甘んじることなく、認定こども園第4年目として職種、職員が一つのチームであることを意識して、保育・教育の充実に主体的に取り組みました。

5. 評価項目別の達成および課題状況

項目	評価・課題
本園の教育・保育目標の認識度	「幼児教育・保育」についての考え方について園内研修等を積極的に行い、職員同士の意見交換により課題等の共有ができた。幼児教育のカリキュラムを作成し発展することができていることは、これまでの成果として捉えている。さらに具体的な実施方法について園全体で考えていく必要がある。

項目	評価・課題
乳児・幼児・延長保育教諭間の連携	園内研修の効果もあり、職員の意識は高まってきている。特に保育職員による不適切保育に関する意見交換に力を入れた。カリキュラムに関しても実践報告も踏まえ、意見交換しながら学びの場をつくっている様子がうかがえる。 担任と延長保育教諭との申し送りに課題がないよう、報・連・相を徹底させる。
各職種間の連携	保育と調理部門の調整力が高まってきている。お互いの立場を理解し連携することができるようになってきている。 日常的なコミュニケーションを図ることを全職員が心がけ、こどもたちの毎月の身体測定や健康診断の情報の共有を引き続き強化していく。 コロナ感染症により開催が難しかったクッキングについても徐々に再開し、行事の計画から実施にいたるまでの連携の課題も解消できている。
保育・教育内容	「心を育てる」「学びは遊びから」をモットーにこどもと接することを全員が心掛けることを重要視している。 『現場発信』を重視し、様々な意見交換を職員同士で行い、「子どもにとってよい環境とは何か」を中心に据え、教育・保育の内容について検討、実施、検証の繰り返しが必要。 2018年度から英語教育を導入。2023年4月からは、ECCの習い事を導入した。
研修	園内研修の機会を定期にもつことで、職員の自己の課題、担当現場の課題、園全体に対する課題点を認識する職員が増えた。園内研修の有効性を確認している。 パート職員の研修参加も増やすことができた。 また、キャリアアップ研修の受講費用補助制度により、受講者及び回数を増やすことができた。

項目	評価・課題
安全への取り組み	月 1 回の避難訓練及び適時行った訓練での気づきと改善点を共有することを重点目標とした。 本番をいかに想定し訓練するが重要であり、二次避難を行う必要性の理解を図った。不審者対策について更なる意識改革、具体的な取り組みができた。
特別支援	特別な配慮を必要とする場面が増えてきており、個別支援計画の必要性を感じている。今後の課題として、園全体での取り組みの推進が引き続き必要。 職員個々の学びを深め、職員同士の事例検討など、特別支援教育のあり方が今後の課題。さらに専門家の定期的な関わり、連携の必要性を感じている。
保護者との連携	保育参観ウィークの再開、1 年間の製作展示の再開など、実際の保育・教育の様子を見て頂くことで園の方針等の理解を深めていただくための環境づくりを行った。保護者会からの提案を丁寧に検討し、次年度計画に反映した。
地域子育て支援	リトミックを毎週定期に行う取り組み、園庭開放や同年齢児クラスの活動参加など好評いただいた。内容や回数の見直しを継続して行う。
幼小連携	小学校との連携の内容が年々充実しつつある。特に諫早小学校においては積極的に中心的役割を担っていただいている。 定期的な学校教諭等とのミーティングの実施、双方の教諭が見学、意見交換することを継続的に行いたい。
取り組むべき具体的な課題	『食育』の重要性－食事環境、食事のマナー、食の楽しさを感じさせる工夫。 『遊び』の環境づくり－遊びの質を高めること、遊びの内容を充実させる。 会議、園内研修の充実度を高める。特に特別支援に関する学習の充実が求められる。

総評	新型コロナウイルス対策にて縮小していた活動もようやく以前の形に戻していくことができ、こどもたちのみではなく、保護者の笑顔、喜ぶ姿をみることができた。 こどもたち、保護者にとって有意義な教育・保育のあり方を追求していく姿勢が求められている。 『体育、音楽、製作、ことば、自然環境』これら5つの分野で研究活動を各リーダーを中心に計画立てて推進したことは評価できる。職員各自の幼児教育に係る意識を高める取り組みであることが評価できる。 園児や保護者、地域の子育て支援を必要とする世帯に必要とされるサービスの充実を図るため、計画を立て、実行し、反省し、計画を見直していく過程が園全体で重要なことであることについての認識も高まっている。 しかしながら、幼児の教育・保育に携わる集団としては、よりレベルの高い『気づきの力』を身に付ける習慣づくり、危機管理能力を高めていくこと、その意識の持ち方が園全体としての今後の課題である。

令和7年2月20日

諫早市仲沖町543番地2
 社会福祉法人 真和会
 菜の花こども園 園長 土井淳一

令和6年度 学校関係者評価結果

社会福祉法人 真和会
幼保連携型認定こども園 菜の花こども園

1. 実施期間

令和7年3月1日～25日まで

2. 評価方法

- ①アンケート（記述・口頭）での評価
- ②保護者会役員会での評価

3. 評価者

- ①保護者及び卒園児保護者（一部）
- ②保護者会役員

4. 評価結果まとめ

評価項目	評価結果
1 子どもさんは、楽しくこども園に通っている。	評価は良好 ・日常的な様子の伝達、コミュニケーションの重視、保護者面談の機会を増やすなど、子どもの様子を共有し楽しく生活できるような働きかけの工夫を行っている。 ・園に行くのを嫌がらなくて安心して預けることができる。
2 子どもさんは、友達と仲良く遊んでいる。	評価は良好 ・仲良く遊んでいる様子が、お迎えの際に感じられる。 ・子ども同士のトラブルをオープンにされているので、問題があっても解決しやすい。 ・保護者懇談会、親子レクリエーションなどでの意見交換の場など親同士がつながる仕組みがある。

3 子どもさんは、園から出された課題を、自分なりの力でやり遂げようとしている。	評価は良好 ・無理強いしたり、強制的な教育カリキュラムがなく、個人差を尊重してくれている。 ・課題解決する力を身に付けさせる教育・保育に期待されている。 ・自ら考え、自ら行動する力をつけていくことが幼児教育に求められている。
4 園は、教育・保育方針や園行事などについてわかりやすく伝えている。	評価は良好 ・年度開始前の2月をめどに新年度の方針、準備についての保護者説明会（次年度の主な変更点など）、クラス単位での懇談会が開催され、次の年度に保護者として何をしなければならないかがわかる。 ・年度が始まる前から丁寧に教育や保育の方針、行事についてわかりやすく伝えられている。 ・年度初めからの個人面談にて教育・方針が確認できる。
5 子ども一人一人が大切にされ、認められる園になっている。	評価は良好 ・詰め込まず偏りすぎない教育・保育を引き続き行い、一人一人をしっかりと受け止めることのできる教育・保育を行っている。 ・園児個々の気持ちを受け止める職員を目指されている。
6 園は、保護者の方の協力や場を生かした保育・教育を行っている。	評価は良好 ・保護者間のコミュニケーションの機会として懇談会、親子レクリエーションの実施を丁寧に企画されている。
7 園は、園内の清掃や整理整頓に努め、子ども達	評価は良好 ・明るく清潔感のある園である。

が気持ちよく園生活が送れるよう心掛けている。	・感染症対策の清掃に努められている。 ・ロッカーやおもちゃの整理整頓がなされている。 ・絵本の破れなども細目に補修がなされている。
8 園は、子ども達の安全に配慮した運営を行っている。	評価は良好 ・園庭や室内での安全配慮に気を配られている。 ・職員個人及び職員間で事例検討するなど事故防止策を考え、安全に配慮した園運営が行われている。

令和7年4月10日

諫早市仲沖町543番地2
 社会福祉法人 真和会
 幼保連携型認定こども園 菜の花こども園
 園長 土井 淳一